



7月報告

アッサラームアライクム。

大変お待たせしております。7月は合宿並びに海外遠征があり、8月は夏季休暇であったため、シユ克蘭日記があいてしまいました。申し訳ございません。

早速ですが、7月の報告からさせていただきます。

6月28日～7月8日、ハンガリーのドゥナヴァルシャーニューに柔道合宿へ行ってきました。このナショナルセンターには、柔道場、ジム、カヌー練習場、ランニングフィールド、サッカー場などの様々なスポーツ施設があり、海外の強化選手が多く利用していました。

このナショナルトレーニングセンター(NTC)では専属の柔道コーチが居り、練習は午前と午後でスケジュールされていました。柔道練習では基礎運動、受け身、投げ込みを中心に練習、トレーニングではランニングとウェイトトレーニングが行われます。柔道の技や技術、実戦練習はそこまで多くはありませんでしたが、私の選手には十分な基礎練習ができました。週に一度、乱取り(実戦練習)が行われており、私たちも参加することができました。練習をしている選手はアフリカからの選手が多く、高校が終わると大学への進学まで時間があるということで、IJF(世界柔道連盟)がNTCでの柔道生

— 出来事 —

- ユースオリンピック・アルゼンチン出場予定
- 世界ジュニア・バハマ出場予定
-

今月のアラビア語

「シュータバターコル」

意味: 何が食べたいですか。

شكرا

シユ克蘭日記

9月号

活を支援しているそうです。私も数人と稽古しました。強かったです。特にボツワナ組は技が上手く身体能力も高く力強い技を打ってきます。寝技もしぶとく、じわじわと体力を奪われていく様でした。彼らに稽古をつけていて楽しささえ感じました。

ケビンとガビン、とても遅くなっていました。綺麗な柔道をし、礼儀も正しく、柔道に対してとても熱心で、何事も学ぶという姿勢が見られました。



練習終わりにガビンが私の部屋に訪ねてきました。手には一冊の柔道ノート。彼は一言、「サインをください」と私に言いました。そのノートには、圭佑(故井坪圭祐氏、元ボツワナ柔道隊員)のコメントがびっしりと書かれており、圭佑の柔道指導に対する熱意が伝わってきました。「いい先生に出会えたな」と言うと、彼は「私の人生を変えてくれました。これは私の思い出です」と言っていました。彼が、そのノートにサインが欲しいと持ってきたので、私は快く名前を書きました。更なる活躍に期待したいです。

Asia Cup in Hong Kong & Macao

2018年7月14~15日に香港、16日~23日にマカオにてアジアカップ(カデ、ジュニア)が開催されました。今年は、10月に行われるユースオリンピックのポイントもゲットできるとあり、アジアに限らずオープンの大大会(ユースオリンピック資格大会)になりました。参加国や人数も去年の2倍ほどになり、レベルもグンッと上がり、盛大に行われました。以前、モロッコで行われたスクールオリンピックで全滅という結果に終わったので何としてもメダルをとという気持ちで挑みました。

アジアカップ・香港大会当日、初出場組4人は呆気なく負けてしまいました。残る4人は一人を除き、全員試合経験もあり今回メダルを狙っていました。終わってみると結果は銀メダル1個。悔しい結果に終わりました。今回の大会では、逆転される選手が多く見られました。



その逆転を許す原因として、試合中に休む・気が緩んだ時に投げられるということが多くありました。これもまた UAE 選手の課題の一つで、今回は、「きついから休もう」・「辛いから休もう」という性格が試合に出ました。選手に「何故あの場面で気を抜いたのか？」聞いても「息ができなかった、きつかった」と返ってきます。私は

「せっかく試合をリードしていたのに、その一瞬で逆転負けをする悔しさを感じるか、やり切った後の達成感を味わいたいのか、どちらが自分の為になるか考えなさい」と言いました。私自身、メダルを取るか取らないかの前に、選手がどう変わったか、どれだけ成長したかの方が重要だと考えています。

マカオに移動し、3日間の合同練習が始まりました。香港大会に出場した選手は、殆どの選手がマカオに移動してきます。選手らには、徹底して同じ階級と練習することを指示しました。勿論、指示通り練習をする選手としない選手が分かれました。3日間の練習が為になるのかならないのかはわかりませんが、この指示が良くも悪くも試合に大きく影響しました。

練習をあまりしなかった初出場組はマカオでも力を発揮できず敗退しました。まだまだ強化が必要です。指示通りに練習を行っていた4人はいい試合をしてくれました。

50Kgのアハメド・アルナクビ君はオール一本勝ちで優勝。彼は毎日私の道場で頑張っていたのでとても嬉しかったです。結果はオール一本となっていますが、内容は過酷でした。香港では、リーグ戦で彼らに敗退し、メダルにも手が届きませんでした。



今回のマカオ大会でも試合初めに技有を取られたり、指導2を取られたりと、決して逃げていたわけではあり



ませんが、圧されていました。しかし、この3日間彼らと練習をしたことが功を奏し、諦めずに攻めた結果がオール一本となったと思います。

55Kgのアハメド・アルチュマイリ君はハンガリーの合宿で肋軟骨を怪我して、私は今回、彼の出場を見送ろうと思っていました。しかし、彼の決意と、怪我の具合を見て寝技絶対にしないという条件で出すことに決定。香港では、初戦から好調で準決勝まで頑張ってくれたものの抑え込まれ敗退。無理に逃げなかったので痛みは少なく、マカオにも出場させました。1,2回戦とこちらも好調でした。準決勝では指導3で敗退するも、3位決定戦でいい試合をしてくれました。攻防の末、寝技に持ち込まれ負けてしまいましたが、初カデの試合で彼のポテンシャルを見ることができました。来年に期待です。

60Kgのアハメド・アルホサニ君は二回戦敗退しましたが、敗者復活戦で2回勝利し、3位決定戦へ進みましたが、何とその相手は、3日間の合宿で良く練習をしていた選手でした。彼の相談にも乗り、相手の対策をしていました。GS(ゴールドスコア)、いわゆるサドンデスに入り1分過ぎ、場外際で放った内股が決まり技有、見事勝利しました。

73Kgのカリーファ・アルホサニ君は順調に進み準決勝へ、オーストラリアの選手です。この選手は、去年の

大会でも注目選手でありました。体力が無限で初めから最後まで攻めてくる選手です。技にもキレがある選手で、攻めていく中で、指導を嫌がり前に出てくる選手を投げるとい選手です。カーリーファ君は対応ができず負けてしまいました。3位決定戦では開始直後、袖釣り込み腰が決まり一本。銅メダルを獲得しました。

今回の大会では、金メダル1つ、銀メダル1つ、銅メダル2つと去年よりは少ない結果に終わってしまいました。参加国や選手を見て弱気になる選手は居なかったものの、試合中に諦める選手が多く見られました。きついのは仕方ありません。どれだけトレーニングしてレベルを上げてきつい時はきついし、息が出来なくても試合は終わりません。そこできつくて休むのではなく、その頑張った先にある景色がどれだけ最高な物なのかを見てもらえるように指導していきたいと思っています。

(UAE柔道連盟 原口直也)